

日本動物看護学会 第15回大会

● テキスト ●



2006 (平成18)年 7月9日 (日)
慶應義塾大学・三田キャンパス 北館ホール

日本動物看護学会 第 15 回大会 を迎えて

日本動物看護学会 会長 今道友則

(日本獣医生命科学大学 名誉教授、元 同大学学長)

日本動物看護学会は設立以来 10 年半を経過し、遅々とした歩みではありますが、学際的な協力の下に着実に実績を重ね、この度、第 15 回大会並びに第 12 回定時総会を例年のように慶應義塾大学三田キャンパスをお借りして開催する運びとなりました。御多忙の中を大会運営に御盡力下さる、本学会副会長の慶應義塾大学教授・渡辺茂先生はじめ研究室員の皆様に感謝し厚く御礼申し上げます。

ところで、本学会の年次大会並びに定時総会は従来 6 月に開催されていましたが、4～6 月は、動物病院では狂犬病予防注射などで多忙な時期であるので、理事会に諮り大会・総会を 7 月にずらして、より多くの会員が大会・総会に出席しやすいように取計った次第であります。

本学会の学会誌『Animal Nursing』の内容も次第に充実・向上して参りました。最近の 3 年間は動物看護師資格認定試験の実施に伴う諸般の事情で、本来の学会活動である研究活動に一時的停滞がみられましたが、本学会から動物看護師資格を認定された者も 1000 名に近づきました。これらの方々の今後の研究活動に期待いたします。また、動物看護学教育機関も数多くの専門学校に加えて、大学 3 校、短大 1 校が開設されています。これらの教育機関の教員・施設・設備の充実によって教育内容の充実と研究活動が活性化して、本学会の大会において多数の発表が行われ、『Animal Nursing』誌を充実した「季刊誌」に成長させることを緊急の目標として進みたいと思います。

なお、動物看護師の職務は動物の健康保全のみならず、それを通じて、動物から人への共通感染症を防止するという、国民の生命財産の保護にも直接関与する職業の一つであります。このことが広く国民・国会及び政府に理解されて、動物看護師資格が統一された国家的認定試験によって付与される時が早く訪れるように、地道な活動を忍耐強く行わなければなりません。幸いに、この問題が既に日本獣医師会と農林水産省で取上げられ、また獣医大学の附属病院に動物看護師の席が設けられ始めたことも明るい兆しといえます。いずれにせよ、動物看護師の資質向上と身分保証は国家国民のために必須であるという高邁な基盤に立って、動物看護関係者は個々の利害にとらわれることなく、相互協力と切磋琢磨を重ねなければなりません。そして常に、日本獣医師会・獣医大学及び関連する学問分野との学際的協力と御支援を仰いで進むことが大切であります。

◎日本動物看護学会の概要紹介／そもそも学会って何？

日本動物看護学会は1995(平成7)年に発足以来、〈学問としての動物看護学の進展〉〈動物看護師の職域拡大と地位確立〉を目的とした活動を行っている学術団体(学会)です。

学会の定義をあらためて確認します。辞典には、「学者(編注:学ぶ人全般の意)相互の連絡、研究の促進、知識や情報の交換、学術の振興をはかる協議などの事業を遂行するために、組織する団体」(広辞苑)とあります。

つまり日本動物看護学会とは、動物看護の発展をめざす会員の皆さんが、積極的に集まり、動物看護に関する研究結果を報告・考察し合うための、開かれた交流の場です。動物看護を研究する上で、わからないことがあって困った時、また行き詰まった時など、当学会へ来て問題提起すれば、それに対して一緒に考えてくれる人がいる

——それが学会としての役割・使命です。

当学会員は、動物看護師・獣医師・研究者・学生(大学生・専門学校生)・一般社会人の皆さんからなります。職種や研究領域の違いをこえて様々な立場の人が参加しています。具体的には現在、次のような活動を行っています。

- 大会・例会の開催(研究発表・教育講演など)
- 「動物看護師資格認定試験」の実施
- 当学会「動物看護師」資格認定者への生涯教育活動(各種講座・勉強会など)
- 出版物の編集・発行(書籍『動物看護学(総論・各論)』、学会誌『Animal Nursing』など)
会長:今道友則(日本獣医生命科学大学 名誉教授、元 同大学学長)
会員数:1,151名(2006年7月7日現在)

当学会が考える看護対象動物は、ペットやコンパニオンアニマル(伴侶動物・愛玩動物)以外の産業動物・野生動物・実験動物・展示動物にも及びます。したがって当学会には、わが国における「人と動物の関係学(ヒューマン・アニマル・ボンド研究)」を、広く深く考えてゆこうとする面もあります。

ところで、〈例会や学会誌における発表〉は一人一人の業務の中から生まれてきます。それらは大変貴重な報告です。しかしそれらが、ただ発表されただけで終わってしまっ

ては、せっかく発表された意味が半減してしまいます。一つ一つの発表は、発表者とその方の所属先との、いわば“単独の成果”です。したがって、それらを聞いたり読んだりしたら、次にはぜひ、自らの業務に照らし合わせて、いろいろと比較・分析・考察してみてください。そして今度は、ぜひ自分が発表してみ

ることを考えていただきたいと思います。そうやって、たくさんの発表が何年かかけて蓄積されて行くと、そこには必ず自ずと“発表領域の体系の形成”や“発表内容の質のいっそうの向上”が生まれてきます(必

ずや量は質を伴います)。そのとき初めて、獣医学とは一線を画する“わが国独自の動物看護学”が誕生してくることでしょう。

昭和20年代、米国関係者は、当時のわが国の(人医療の)看護婦を「まるで召使いと同じ」と感じたそうです(『月刊看護』06年1月号 p88)。しかしその後、人医の看護学も、上記のような経過を積み重ねて、看護師自らの努力により構築されてきました。

看護とは“実践の科学”です。したがって場当たりの意味がありません。看護実践の蓄積と発表から生まれる理論的根拠の明確化が必要なのです。

「獣医学からの指導」「獣医師との連携」は大変重要です。しかし、動物看護師自らが“ミニ獣医学(おかしな表現ですね)”ではない、独自の動物看護観を確立させるための行動を、自分たちで起こさない限りは、動物看護師の職域拡大・地位安定をいくら叫んでも、一般社会からの広い支持を得ることは難しいと思われま

す。独自の動物看護観ならびに動物看護学の確立のために何ができるか、また何をすべきか、当学会としても引き続き探っていきます。

当学会ニューズレター 2006年 No.2 より転載

文責:日本動物看護学会 事務局

日本動物看護学会誌『Animal Nursing』次号は、2006年8月に発行いたします。
「動物看護師による動物看護報告」「研究者による論文」「06年2月例会・動物看護師シンポジウムの誌上再録」「当学会活動の詳細報告記事」などを掲載いたします。
【当学会員にはもれなくご郵送いたします。もう少々お待ちください】

おことわり

このテキストに掲載されている内容を、無断で複写・複製・転載することを厳禁します。このテキストの内容は、聴講者の学習の便宜のために、特に発表者の許可を得て掲載したものです。したがって個人または院内での学習・研究目的以外での使用を禁止します。

※ 一部 講演者・発表者の掲載内容は、会場で映写されるものと異なりますのでご了承ください。

日本動物看護学会 第15回大会 プログラム 敬称略

司会進行——小松千江（東京都・新ゆりがおか動物病院 動物看護師、当学会理事）

10:30～10:40 開会のことば／今道友則（日本動物看護学会 会長）

10:40～11:50

基調講演／動物福祉はなぜ必要か —基本を学ぶ・世界の流れを知る— p7

上野吉一（京都大学霊長類研究所 人類進化モデル研究センター 助教授—生命倫理研究領域—）

1960年 岩手県生まれ。北海道大学農学部卒業後、同大学大学院博士課程（行動科学）修了。

専門は、霊長類の味覚・嗅覚の知覚・認知。主な論文に「味覚からみた霊長類の採食戦略」（『日本味と匂学会誌』99年8月号）。

著書に『グルメなサル 香水をつけるサル—ヒトの進化戦略—』（講談社選書メチエ）など。

現在、当学会誌『Animal Nursing』に「動物福祉はなぜ必要か」を連載中。

〈座長〉 桜井富士朗（当学会副会長、帝京科学大学客員教授、桜井動物病院 院長）

11:50～12:50 昼休み

12:50～13:20 **第12回 定時総会** ……当学会活動に関する事項について報告・承認を行います。
学会員のみ出席できます。

13:30～15:00 **教育講演／動物看護師が知っておきたい犬猫の眼科看護と保定法 p11**

中井江梨子（東京都・どうぶつ眼科 Eye Vet 動物看護師、当学会評議員）

村尾信義（神奈川県・王禅寺ペットクリニック 動物看護師）

15:10～16:25 **一般演題発表** 筆頭発表者名のみ表記 1発表につき〈発表10分＋質疑応答5分〉

1. 口腔内熱傷の犬の看護—入院受け入れから退院後の支援まで— p19

／藤原真希（広島県・西谷獣医科病院 動物看護師）

2. 動物看護師による犬のペインスコアの検討 p24

／齋藤みちる（神奈川県・七里ガ浜ペットクリニック 動物看護師）

3. 動物看護学生がイメージする動物看護職の現状と理想

—学年差についての検討— p31

／小嶋未来（東京都・ヤマザキ動物看護短期大学）

4. 体温・心拍数・呼吸数（TPR）測定の有用性について p36

／田嶋理沙（埼玉県・小林犬猫病院 動物看護師）

5. ドッグラン施設における現状と課題 p40

／依田久美（山梨県・赤池ペットクリニック 動物看護師）

〈座長〉 種市康太郎（聖徳大学人文学部心理学科 助教授）

西谷孝子（広島県・西谷獣医科病院 動物看護師、当学会理事）

16:30～17:00

**ガイダンス／動物看護過程（アセスメント・診断・計画立案・実施・評価）とは何か
および 発表と投稿の方法**

p43

西谷孝子（広島県・西谷獣医科病院 動物看護師、当学会理事）

〈座長〉 種市康太郎（聖徳大学人文学部心理学科 助教授）

17:10～18:00 **懇親のつどい** ……おつまみと軽食による懇親会です。

お気軽にご参加ください！ お一人でも大丈夫です。

参加費は入場料に含まれています。【会場は、ホールの隣室です】

ご協賛各社様（五十音順、敬称略）

ブースご出展 アニコム インターナショナル株式会社
株式会社 インターズー
株式会社 学窓社
日本メープルリーフフーズ株式会社
ペットワン株式会社

資料配布 マスターフーズ リミテッド
株式会社 緑書房

誠にありがとうございます。

【基調講演】

動物福祉はなぜ必要か—基本を学ぶ・世界の流れを知る—

上野吉一

(京都大学霊長類研究所 人類進化モデル研究センター 助教授 —生命倫理研究領域—)

EUの家畜管理に関する協定であるアムステルダム条約(1997年)の議定書には、「家畜は単なる農産物ではなく、感受性(意識)のある存在(sentientbeing)である」と定義されている。一方、日本における動物の管理・取り扱いに関する法律である動物の愛護及び管理に関する法律では、動物を「命ある存在」として捉えている。日本は命そのものに対し大きな価値を置く傾向にある。動物は命を持ち、生活をしている存在である。動物に対する福祉的配慮を考えた場合、命の問題を考えるだけでは十分ではない。愛護という考え方(現実にはその考え方には大きな幅があるが)と、福祉という考え方の大きな違いの1つがそこにあると考える。日本的な動物への配慮は、「愛護的」傾向にある。命ある、すなわち生きているということに注目し、その状態に対する目が必ずしも十分ではない。その結果として、生命の危急からの救いが重要な課題となる。しかし、最初に述べたように、動物福祉の観点からは生きているという状態に目を向けるだけでは不十分である。生活するプロセスの中での苦痛や要求に対し応える工夫をすることが必要である。すなわち、彼らの要求を理解し生活環境をそれに適合させるよう改善し、生活の質(Quality of life)を高めることが求められるのである。そのことが、「感受性ある存在」としての動物へ配慮するということになる。

こうした動物に対する姿勢の違いは、まさに文化的な違いを基盤としている。そのため、単純に欧米流の動物福祉の概念や方策を持ち込んでも、日本ではなかなか根付くことは難しい。キリスト教的生命観を基盤とする欧米の人々にとり、意識するか否かは別として、動物を管理することは自明のことと捉えられる。一方、日本人にとり動物は長い間共に暮らす対象だった。人間の目的に合わせ、好き勝手に利用したり、作り替えたりする対象ではなかったのである。その端的な例として、品種改良をあげることができる。日本には従来品種改良という発想は乏しく、イヌにしてもウシやウマにしても、在来のものを地方品種としたに留まってきた。こうした文化的背景を塗り替え欧米流の動物福祉を導入するのか、あるいは日本独自でかつ国際的ハーモナイゼーションに耐えうる考え方を確立するのか、その岐路に現在の日本は置かれていると言える。わたし達日本人もそろそろ動物福祉という問題の存在を直視し、かつ動物を客観的に理解し、どう配慮すべきを社会として議論する必要があるだろう。

動物福祉はなぜ必要か —基本を学ぶ・世界の流れを知る—

京都大学霊長類研究所
人類進化モデル研究センター

上野吉一

動物への配慮の歴史的経緯

- 古くて新しい問題
 - ヨーロッパ: 1800年代から始まる
 - 日本: 1900年代から始まる
- 動物への虐待防止
- 動物の生活(QOL)への視点の拡張

生命の扱い

- 安楽死 ⇒ 安楽殺
 - 尊厳死(Good death)と慈悲殺(Marcy killing)
 - 動物は死を望まない
 - 動物におこなうことは殺行為
 - 安楽死から安楽殺への視点の転換

QOLへの配慮

- 『動物は意識を持った存在』: 欧米の認識
- 『動物は命ある存在』: 日本の認識

『生命の危急からの救い(虐待の防止etc.)から、
生活のプロセスへの配慮の展開』

日本においては一層の社会的議論が必要

福祉 (広辞苑より)

- 1) 幸福
- 2) 公的扶助による生活の安定、充足 (社会制度)

何かをしてあげることではなく、
当事者が“望むこと”を実現できる
機会を持っている状態

動物の福祉とはなにか

- 動物福祉の定義
『個体が自らが置かれた環境に対し“上手く
対処する”ことが可能な状態。』
- 動物に対し何かをしてあげることではない
- 動物の状態への配慮が問題

なぜ動物福祉が必要か

- 動物の科学的理解の進歩
- 『人皆有所不忍: 孟子』
人は誰もが、他者の身に起こったことを知ってしまった時、
知らぬふりはできない
わたし達は、動物がどのような状況に置かれ、どのような
苦痛を感じ、何を要求しているのかを知り始めた

なぜ動物福祉が必要か

- 動物福祉は動物の扱いや飼育環境を向上させる
 - 動物福祉を考え、実践することは、ヒト自身の生活や
福祉を考えることにつながる
- 動物福祉学 ⇒ 生物学的幸福論

動物福祉と動物愛護

- 動物愛護 ⇒ 動物の生きる権利
- 人のための動物の利用に対する態度の違い
 - 動物の利用を認めない (動物の権利)
 - 動物福祉は利用を認める (動物福祉)

これら2つの考え方は似ているが、
異なる立場である

動物福祉

“利用の仕方”が問題

- 飼育方法
 - ・栄養や傷害への配慮
 - ・環境エンリッチメント
 - ・人との関係 ⇒ 訓練、しつけetc.
- 利用方法
 - ・実験方法(実験動物)
 - 3Rsの原理 (Reduction, Replacement, Refinement)
 - ・屠畜方法(家畜) ⇒ 短時間で苦痛のない処理
 - ・動物ショー(展示動物) ⇒ 必要か否か

【教育講演】

動物看護師が知っておきたい犬猫の眼科看護と保定法

中井江梨子（東京都・どうぶつ眼科 Eye Vet 動物看護師）

村尾信義（神奈川県・王禅寺ペットクリニック 動物看護師）

どうぶつ眼科の魅力と看護

中井江梨子

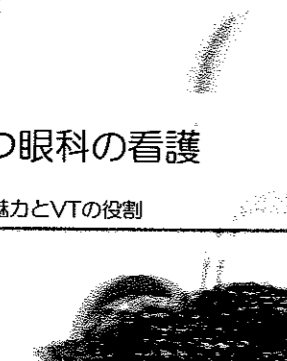
動物と暮らす多くの方にとって、自分の子が見せてくれるいろんな表情は、それが可愛いらしくても不細工であっても、最高に癒される宝ではないでしょうか。顔を見れば話しかけられているのを感じると思います。眼は自分にとっては光を感じることでできる唯一の組織であり、他者に対しては感情表現やコミュニケーションツールとしても重要な器官です。

「動物の眼科」と言うと、時として「犬が視力検査するの？」と冗談のように笑われることがあります。また獣医療関係者の中にも、「うちは眼科症例が少ないし、命に関わらないから」と関心を持って頂けないこともあります。しかし、あるリサーチによると一般外来の動物の約30%には何らかの眼科疾患があるとされています。そして眼科に来院されたオーナー様や動物は、切実な要求や大きな不安を抱えていらっしゃるのも事実です。あるいはオーナー様がお気づきでなくとも、動物本人は問題を抱え苦しんでいることもあります。


獣医療は動物の疾患や治療に目が向けられているのに対し、動物看護は動物やご家族の問題点に目が向けられており、その問題点は疾患や治療とは限りません。その点は眼科も変わりありませんが、その中でも今日は外来時における眼科特有の看護ポイントやVTの役割と、動物の眼科に対する理解を深めて頂くべくお話させて頂こうと思います。また、看護の実践に関しては皆様のお話を是非お伺いしたいので、ご遠慮なくご意見を頂きたいと思います。

どうぶつ眼科の看護

眼科の魅力とVTの役割



眼科の魅力



眼科検査・処置

<ul style="list-style-type: none"> 検査 - 問診 - スリットランプ検査 - 画像 - シルマーティアート - ティアーブレイクアップテスト - 眼内圧検査 - 眼底検査 - 超音波検査 - EFG検査 - 細胞診 - 第三眼瞼検査 	<ul style="list-style-type: none"> 外来処置 - 涙管洗浄 - デブライド処置 - グリッド処置
--	---

Question?

眼科の魅力

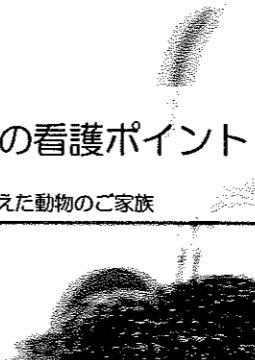


眼科の魅力



どうぶつ眼科の看護ポイント

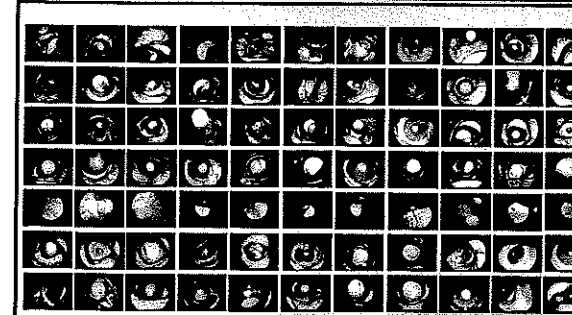
眼科疾患を抱えた動物のご家族



眼科看護の主なポイント

- オーナー
 - 精神的負担
 - 先入観
 - 治療への理解
 - ・点眼
 - 薬
 - 使用法
 - 犬猫の協力性
 - オーナー様の生活
 - ・症状の理解
 - 予防への理解

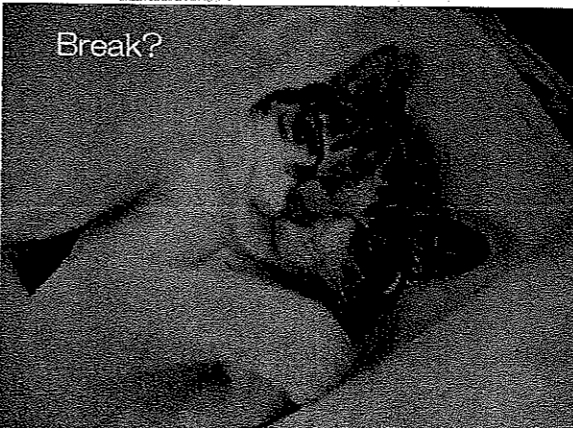
こんなにある眼科疾患



眼科看護に求められること

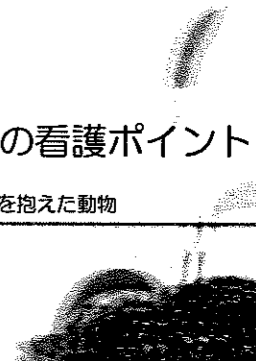
- 眼科に来院された動物とご家族への理解
- 眼科疾患を抱えた動物とご家族への理解
- 動物眼科への理解・知識・技術
 - 検査・処置
 - 症状・病状
 - 治療・薬
 - 手術・入院
 - 予後・予防

Break?



どうぶつ眼科の看護ポイント

眼科疾患を抱えた動物



眼科看護の主なポイント

- 動物
 - 恐怖心
 - 視覚障害
 - 痛み
 - 全身とのバランス

13 どうぶつ眼科 Eye Vet

視覚障害（可能性）のある疾患

14 どうぶつ眼科 Eye Vet

痛みのある眼科疾患

15 どうぶつ眼科 Eye Vet

眼科疾患と全身との関係

16 どうぶつ眼科 Eye Vet

目の処置時の保定法

短頭種犬編

保定学とは、

人と動物の絆を深めることを目的とし、
バランス力学、解剖学、生理学、動物行動学
などの様々な知識をもとに、動物に信頼され
ながら動きを止める方法を考える学問である

押さえる前に知っておくこと

- ★人と異なる解剖学的特徴
- ★ノンバーバル・コミュニケーション
- ★立つ位置、立ち方、台の調節
- ★サポーター・パーツ


短頭種

目のトラブルが絶えない犬種

マズルが短く保持しにくい

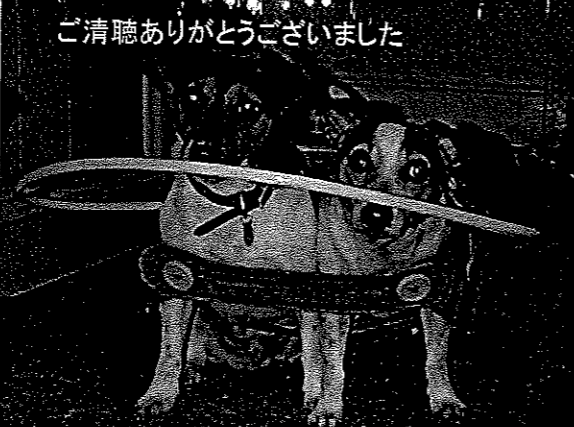
すぐにチアノーゼを起こす

Enjoy, Happy Life♪



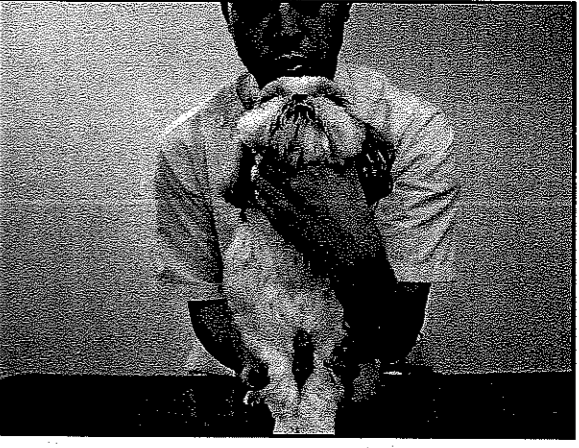
17 どうぶつ眼科 Eye Vet

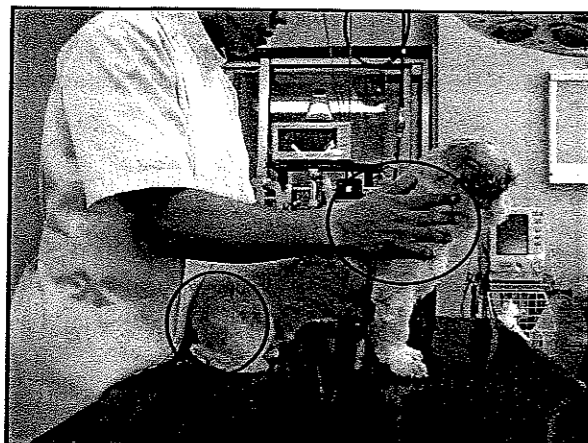
ご清聴ありがとうございました



頭部保定法

- 顎前肢固定型頭部保定法
- 顎後頭部固定型頭部保定法
- トライアングル・ホールド変法
- 基本保定応用法
- 手腕頸部保定法
- アームネックス・ホールド





誤った保定

★力任せに押さえ込む

★獣医師の便益のみを考慮した持ち方



緑内障の場合

押さえつけると眼圧が上がる

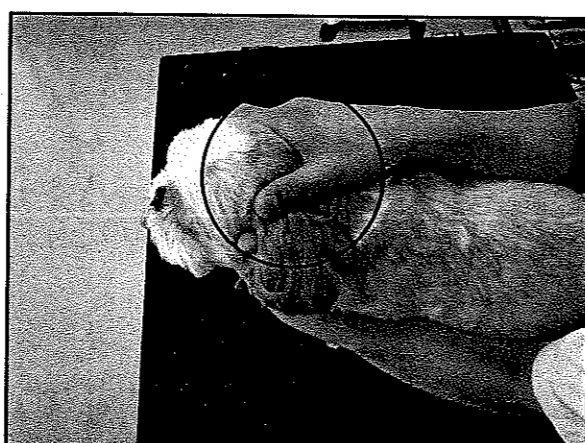
↓
正確な値を測定できない

深い角膜潰瘍の場合

過度な動物の興奮や頸静脈の圧迫

↓
角膜穿孔

↓
治療の複雑化



正しい保定

★力任せに押さえつけない

★相手する動物の総合的な知識と情報が必要

★やさしい気持ちで押さえる

正しい保定

動物のストレス軽減

↓
早期治癒

↓
飼い主のQOL（生活の質）が向上

保定法とは、

単に、動物を押さえることではなく、
獣医師と動物、飼い主、動物看護師、
それぞれに信頼の和を築き、
安定を保つための
コミュニケーション技術のこと

口腔内熱傷の犬の看護

～入院受け入れから退院後の支援まで～

西谷獣医科病院 動物看護師 藤原真希、西谷孝子

獣医師 西谷利文

はじめに

熱傷とは一般に「やけど」といわれ、ごく身近に見られる疾患である。熱傷の看護には、ショック状態を改善する、環境の調整、栄養管理、感染防止、不安の緩和が挙げられる。熱性物質が皮膚に作用し、水泡、潰瘍などが局所に起こり、広範囲な場合は局所のみならず全身的にも変化が見られる。熱傷の病態は多様で治療法によっても治癒過程に違いが生じる。

本症例は電気コードをかじって、口腔内熱傷と診断された室内犬である。熱傷部が口腔内であったため癒着防止及び創部の管理のため入院となった。感染防止、栄養管理、また退院後の過ごし方への支援を考慮し、看護計画を立案し看護を実践した。今回、口腔内熱傷の犬の看護について示唆が得られたので報告する。

1. 研究目的

口腔内熱傷の犬の看護を実践し、考察することで今後の示唆を得る。

2. 研究方法～症例研究

○症例紹介

- ・動物 犬（プードル×マルチーズ Mix）、雌、1歳6ヶ月
- ・診断名 口腔内熱傷
- ・入院期間 平成18年4月1日～4月12日
- ・既往歴 平成17年10月6日 タマネギ中毒で2日間点滴入院
- ・現病歴 平成18年4月1日 19時15分 こたつの電気コードをかじって感電して気

絶した。今は意識を取り戻したが念のため診てほしい、という主訴で来院。右口角の皮膚及び口腔粘膜、歯肉、舌にまで熱傷がみられた。組織が壊死、脱落する可能性があり、癒着防止のため入院し抗生剤及びステロイド療法を行うこととなった。

- ・性格 なつっこい、寂しがり
- ・治療方針 抗生剤・ステロイドの投与、点滴治療、生理食塩水にて口腔内洗浄
- ・薬物 点滴： 乳酸化リンゲル液、アンピシリン
注射液： 非ステロイド系鎮痛消炎剤（メロキシカム）0.4mg プレドニン 2mg
エンロフロキサシン 10mg
内服薬： 塩酸クリンダマイシン（アンチローブ 25）
- ・飼育者 70歳代の女性（杖を使って歩行）、息子、娘
- ・生活環境 室内にて自由に飼っている、多頭飼育（プードル：雌7歳、マル×プー：避妊済み雌7歳、プードル：雌11歳）

口腔内熱傷の犬の看護

～入院受け入れから退院後の支援まで～

西谷獣医科病院
動物看護師 藤原真希
西谷孝子
獣医師 西谷利文

1. はじめに

熱傷とは一般に「やけど」と言われ、ごく身近にみられる疾患である。熱傷の病態は多様で治療法によっても治癒過程に違いが生じる。

本症例は電気コードをかじって口腔内熱傷と診断された室内犬である。感染防止、栄養管理、また退院後の過ごし方への支援を考慮し、看護計画を立案し、実践した。今回、口腔内熱傷の犬の看護について示唆が得られたのでここに報告する。

2) 看護目標

- ①疼痛が緩和され、食餌ができるようになる。
- ②口腔内の清潔が保たれ、二次感染を起こさない。
- ③飼い主が事故が起こらない飼育管理を理解できる。

5. 看護の実践

- ・入院1～2日目
口腔内の痛みを考慮し缶詰を与えると、すぐには食べないが口の中に入れてやると食べ始める。水もシリンジで少量ずつ与えた。
- ・入院3～4日目
缶詰の食べかすが右口角に詰まっているので生理食塩水で洗浄する。食欲も出てきたため退院予定となる。

2. 研究目的

口腔内熱傷の犬の看護を実践し、考察することで今後の示唆を得る。

3. 研究方法

症例研究



- ・入院5～8日目
嘔吐が見られ食欲も減退したので入院が延期となる。点滴を再開すると嘔吐も治まり食欲も戻り、経過も順調だった。
- ・入院9～12日目
ドライフードを与えてみると食べようとするが粒が大きく熱傷部が痛むのか食べれずにいたので割って与えるとよく食べる。元気も食欲もあり、経過も順調だったため退院となる。

症例紹介

- ・動物 犬(プードル×マルチーズ)
雌、1歳6ヶ月
- ・診断名 口腔内熱傷
- ・入院期間 18年4月1日～18年4月21日
- ・既往歴 17年10月6日タマネギ中毒で2日間点滴入院
- ・性格 なつっこい、寂しがり
- ・飼育者 70歳代の女性(杖を使って歩行)
息子、娘
- ・生活環境 室内にて自由に飼っている、多頭飼育

4. 看護の実際

1) 看護上の問題点

- ①口腔内熱傷による疼痛がある。
- ②熱傷が口腔内であるため、二次感染を起こしやすい。
- ③飼い主の飼育管理による事故のため、再度起こる可能性がある。

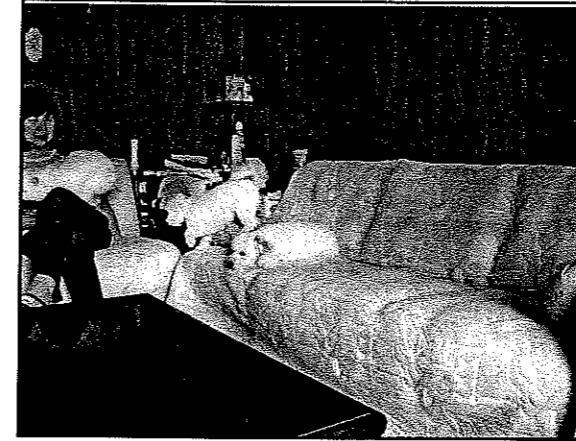
6. 考察

看護上の問題点として第一に口腔内熱傷による疼痛があると考えられた。そこで看護目標①として「疼痛が緩和され、食餌ができるようになる」とした。

疼痛緩和のため、1日1回の鎮痛剤投与を確実に行った。また食餌時の痛みを少しでも軽減させるため、ペースト状の缶詰をあたえ、刺激を減らすため湯せんで温めて与えた。その結果最初は自分からは食べなかったが一さじぐらいを口の中に入れてペロペロ食べ、その後自分から少しずつ食べるようになった。このことから疼痛は軽減されたと考えられ、食餌もとれるようになったので看護目標①は達成できたといえる。

第二に熱傷部が食べ物が入りやすい口腔内であることから二次感染を起こしやすいと考えられた。そこで看護目標②として「口腔内の清潔が保たれ、二次感染を起こさない」とした。

ケージ内の清潔を保つため、排泄などでケージ内が汚れたときはその都度掃除、タオル交換などを行った。また、食餌での口腔内汚染を防ぐため、毎食後生理食塩水で口腔内の右口角部を洗浄した。



7. おわりに

今回この症例を振り返り、単に犬の看護をするとらえていては、飼い主の年齢や生活環境理解していなければよりよい看護はできないと思った。

今回お宅訪問を快く引き受けて下さるなど、飼い主との信頼関係があるからこそ実現したことである。今後もこの飼い主とお付き合いしていく中で飼育管理について支援していく必要がある。



その結果入院中二次感染を起こすことなく経過は順調であった。このことから目標②も達成できたといえる。

最後に、今回この熱傷の原因がこたつのコードをかじったことであり、飼い主の飼育下で起こった事故であったことから再度起こる可能性があった。そこで看護目標③として「飼い主が事故が起こらない飼育管理を理解できる」とした。



退院時に自宅での過ごし方を手紙にし、読みながら説明した。

現在まで同じような事故の再発はないが、飼い主が高齢であること、多頭飼育であるという状況は変わらないので機会のあることに飼育環境を確認していく必要がある。

再診から約2か月後、ご自宅を訪問させていただいた。室内で自由にしていることは変わりはなかったが、「あの事故以来出掛けるときはコードなどは片付けるようにします。目を離すと何をするか分かりませんから。」とのことで飼い主の意識も少しずつ変わってきているようだった。

動物看護師による犬のペインスコアの検討

○齋藤みちる (VT)、齋藤隆 (DVM)、成田直樹 (DVM)
神奈川県・七里ガ浜ペットクリニック

【はじめに】

従来、外科手術後の疼痛管理は、動物の痛みに対する認識不足から耐え難い痛みのみ対処しているのが現実であった。しかし、現在では術前から予防的に疼痛管理を行うことで動物のQOLを向上させることが証明され、疼痛管理の考え方が変わってきている。その中で、看護師は痛みの存在を獣医師に伝える役割があるが、実際の現場において、痛みの有無と程度を正確に伝えることは難しい。今回、痛みを適切に評価・把握するために、当院で試みているペインスコアについて報告する。

【目的】

1. 複数のペインスコアを実施し、その有効性について検討する。
 2. 看護師と獣医師が同時にとったペインスコアを比較、検討する。
- これらを総合評価し、ペインスコアを今後の看護にどのように役立てていくかを考察した。

【症例】

症例は全てASA分類で1または2に分類され、当院で1ヶ月以内に外科手術を行った犬5頭を用いた。

症例	年齢	犬種	性別	内容
1	1歳3ヶ月	中型雑種	雌	避妊手術
2	10ヶ月	小型雑種	雄	去勢手術
3	8ヶ月	アメリカン・コッカー・スパニエル	雄	チェリーアイ整復術 (計2回)
4	12歳	ミニチュア・ダックスフント	雄	精巣腫瘍摘出術
5	6歳	アメリカン・コッカー・スパニエル	雄	皮膚肥満細胞腫摘出術

【方法】

動物看護師 (臨床経験13年) 1名、獣医師 (臨床経験4年) 1名が観察者としてペインスコアを実施した。ペインスコアはVisual Analog Scale (VAS)、メルボルン大学ペインスケール (MPS、日本語訳版)、動物のいたみ研究会のペインスコアを元にしたペインスコア (日本語版ペインスコア) を用いた。評価は、術前、術後30分後、3時間後 (または夕方の処置時)、6時間後 (または午後の診察終了時)、翌朝に実施した。また症例4、5で動物看護師と獣医師のペインスコアの比較検討を行った。

【結果】

症例1・5でペインスコアにより術後の痛みを発見でき、鎮痛剤の投与を行うことができた (従来はその時間に鎮痛剤の投与は行われていなかった)。ほとんどのペインスコアで術後30分を頂点とする山脈様のグラフを呈したが、必ずしも全ての症例で各ペインスコア間のグラフが完全に一致しなかった。その中で日本語版ペインスコアは、チェック項目がかなり細かいため、チェックのし忘れがないのが他のペインスコアにはない利点だった。また獣医師と看護師とのペインスコアの比較では大体相似するグラフの形状を示すが、特にMPSにおいてその差は小さいものだった。

【考察】

従来見過ごされていた痛みを発見でき、それを獣医師に伝えることで早期に治療を行うことができた。今後、症例数を重ねていくことで、動物の痛みを早期かつ適切に治療できる可能性が示唆された。また動物看護師と獣医師との比較検討においては、ペインスコアを組み合わせることで痛みを評価することにより、両者の差をさらに縮小できる可能性が示唆された。今後もお互いが討論、検討を重ねることが必要と考えられた。


【今後の課題】

病院内での痛みの共通認識を持てるようにし、看護師が飼い主さんと獣医師の架け橋になり患者動物のQOLの向上に努めたい。

動物看護師による 犬のペインスコアの検討

○齋藤みちる (VT)、
齋藤隆 (DVM)、成田直樹 (DVM)

七里ガ浜ペットクリニック




痛みの定義

「組織の実質的 (本当に存在する) あるいは潜在的 (起こらうとする) 障害に基づいて起る不快な感覚的・情動的体験」

— 国際疼痛学会 ISAP

↓

- 痛みは感覚であり、他者と共有できない
- 動物の痛みを客観的に知ることは難しい



＝ 従来 ＝
痛みの認識不足

↓

痛みを認識する

＝ 現在 ＝
予防的疼痛管理

痛みの経路の解明
疼痛管理 → QOL ↑

痛み


↓

第5のバイタルサイン




痛みの有無や程度を正確に伝える事が難しい


患者



VT



DVM



→ ? →

今回の発表の目的

- **ペインスコアの有効性について検討**
 - 複数のペインスコア → どんな効果が見られるか?
- **VTとDVM間のペインスコアの差の検討**
 - スタッフ間で痛みの共通認識を持つために...

症例

- 症例
 - 当院で外科手術を実施した犬5頭(計6回)
 - ASA分類で1または2
- 鎮痛薬
 - すべての症例で術前・術後に鎮痛薬を使用
 - プトルファンール、メロキシカム
 - 状況により追加処置

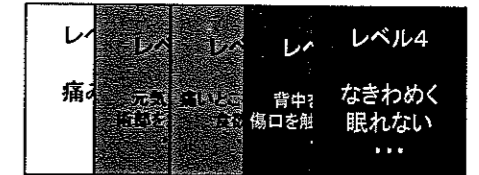
方法

- VT1名(臨床経験13年)、DVM1名(臨床経験4年)ができる限り同時に行う
- 3つのペインスコアを同時に実施
 - Visual Analog Scale (VAS), メルボルン大学ペインスケール(MPS) 日本語版ペインスコア
- 術前、術後30分、3時間後(夕方)、6時間後(夜)、および翌朝に評価

日本語版ペインスコア

- 2005年動物のいたみ研究会での発表をもとに作成した日本語によるペインスコア
- 数十の痛みの行動がリストアップしてあり、評価はそれをチェックする
- 今回、適当な名前が思いつかないため、日本語版ペインスコアと表記

日本語版ペインスコア



- 最終判定は、上のチェック項目を参考にしつつ、感覚で0~4の5段階で判定

Visual Analog Scale: VAS



- 左端(0): 痛みなし
- 右端(100): この手術における最大の痛み

Visual Analog Scale: VAS

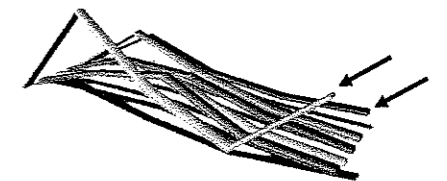


- まず、動物をケージ(や窓)の外から観察
- 次に、直接動物に接触して傷を触れたり、やさしくなでたりしながら、痛みを判定

結果1: ペインスコアの検討

- 3つのペインスコアで得られた数値をグラフ化して比較検討

VAS



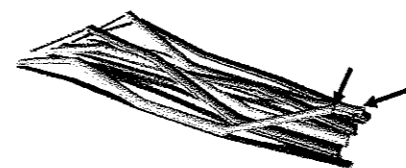
メルボルン大学 ペインスケール:MPS

- 日本語訳版を用いた
- リストに該当する項目の点数を足して痛みを数値化(27点満点=最大の痛み)
- 文献上8点=軽度の痛み とされている

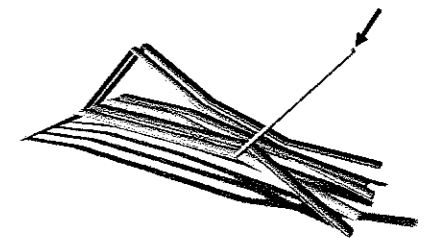
Category	Description	Score
Physiological state	1) 1つの呼吸	0
	2) 2つの呼吸	1
	3) 3つの呼吸	2
	4) 4つの呼吸	3
Response to palpation	1) 1つの呼吸	0
	2) 2つの呼吸	1
	3) 3つの呼吸	2
	4) 4つの呼吸	3
Activity	1) 1つの呼吸	0
	2) 2つの呼吸	1
	3) 3つの呼吸	2
	4) 4つの呼吸	3
Vocalization	1) 1つの呼吸	0
	2) 2つの呼吸	1
	3) 3つの呼吸	2
	4) 4つの呼吸	3
Postural distress	1) 1つの呼吸	0
	2) 2つの呼吸	1
	3) 3つの呼吸	2
	4) 4つの呼吸	3

Total Score: _____

MPS

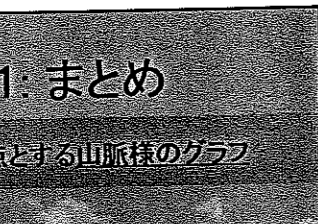


日本語版ペインスコア



結果1: まとめ


- 大半が30分後を頂点とする山脈様のグラフ



症例1,5で術後の痛みを発見でき追加処置を行えた
= 従来ではその時間には鎮痛剤を入れていなかった =


ペインスコアは一長一短

= 各ペインスコア間のグラフは必ずしも完全には一致しない =



結果2: まとめ

- 両者よく似ている傾向
- VAS: 比較的差は大きい
- 日本語版ペインスコア
 - 判定レベル: 比較困難?



MPSは両者の差が比較的少ない傾向

考察



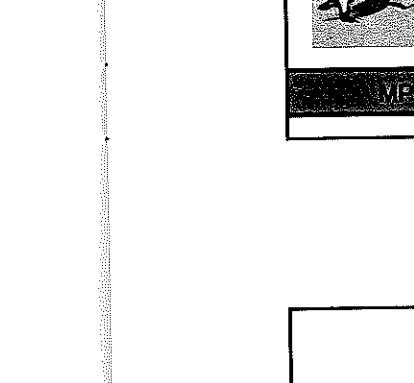
結果2: VTとDVMの差

- 症例1-3'までは練習とし、お互い話し合いながら実施
- 症例4-5について比較



VAS

症例4 症例5



考察1: ペインスコアの有効性

- 従来見過ごされていた痛みを発見でき、それをDVMに伝えることで早期に治療を行うことができた
- ペインスコアは全体的に似る傾向があるが、それぞれのスコアに一長一短が見られた
 - 今後、さらなる検討が必要

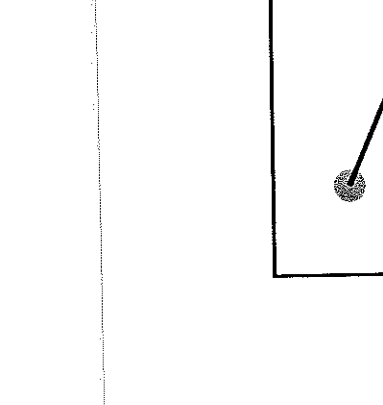
症例数を重ね、ペインスコアに習熟すれば動物の痛みを早期かつ適切に治療できる可能性

ほとんどの症例

術前 30分後

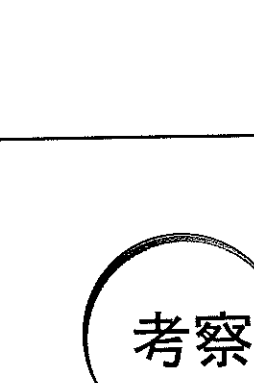
徐々に下降

この場合、追加鎮痛薬は必要なし



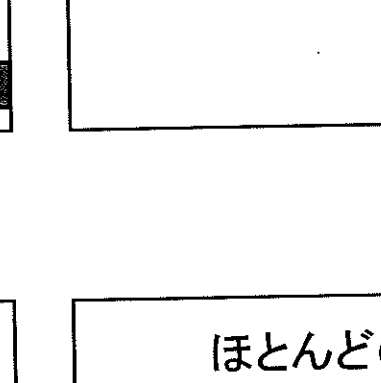
日本語版ペインスコア

症例4 症例5

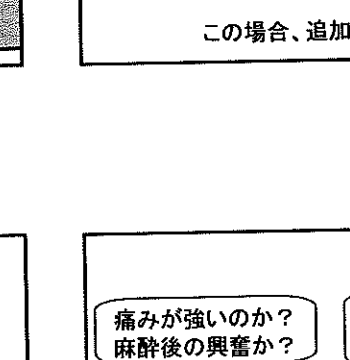


MPS

症例4 症例5



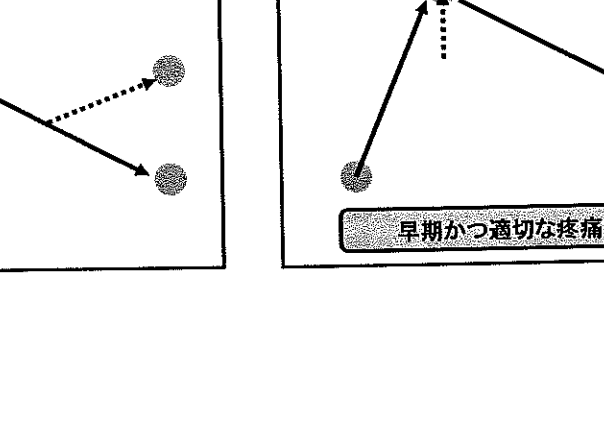
問題となるペインスコア



痛みが強いのか？ 麻酔後の興奮か？

鎮痛薬が切れてきている？ 元の性格によるものか？

早期かつ適切な疼痛管理が可能に



動物看護学生がイメージする動物看護職の現状と理想

～学年差についての検討～

小嶋未来 太田千絵 北嶋愛夢 佐藤雅俊 藤田朋美 渡部美樹 濱野佐代子
ヤマザキ動物看護短期大学

<はじめに>

動物看護系の A 短期大学の学生の多くは動物看護職を目指して入学する。しかし、中には動物看護職以外の動物園や動物愛護団体、動物介在療法などに関連した職業を希望する人もいる。三年間の学校生活を通して、動物看護学の他に、野生動物学やアニマルアシステッドセラピー論、動物福祉など動物に関連する分野も学ぶ。

A 短期大学においては、2年次の夏季長期休暇を始めとして、長期休暇に動物病院へ研修する生徒は多い。実際の動物医療の現場を体験することは、動物看護学生の動物看護職への意識が変容する大きな場面となる。

学生だからこそ、学校生活を通して、動物看護職について様々な角度で捉える機会が多くある。動物看護職の厳しい現実を目の当たりにする一方で、動物看護師の国家資格化、動物看護の職業の発展について議論する場にもなっている。そのようなことを考える過程で、動物看護職に就く人、就かない人に分かれる。これは、動物看護職に対して抱くイメージが大きく影響し、職業選択を左右すると考えられる。そこで、動物看護学生は動物看護職に対してどのようなイメージを抱いているかについて調査を行った。さらに、動物病院研修経験がない入学直後の1年生と、研修経験があり、卒業・就職を目の前にしている3年生を比較し、動物看護職のイメージの差について分析・検討を行った。

<目的>

1. 動物看護学生のイメージする動物看護職の現状と理想を調査する。
2. 動物看護学の学習や実習、動物病院研修を経験して動物看護職のイメージが変化したかについて、1年生と3年生を比較し、検討する。

<研究方法>

予備調査

動物看護師のイメージについて、著者ら3年生6名で意見交換・情報集数し検討した結果と、「看護学生の看護に関するイメージの学年別による検討(白井ら、1995)」の研究を参考に、動物看護師のイメージについてのカテゴリを作成した。カテゴリは「外見、性格、仕事、環境、将来性、社会的見地」が挙げられた。このカテゴリごとに質問項目を作成し、2年生15名を対象に質問紙調査を実施し、意見、感想を述べてもらい検討した。以上の結果をもとに質問項目を作成し、本調査を行った。

本調査

- ・ 実施日時：2006年6月上旬
- ・ 方法：質問紙調査法
- ・ 調査協力者：3年課程の私立の動物看護系の A 短期大学に在籍する学生 185名 (1年生 109名、3年生 76名)
回収率：1年生 82.6%、3年生 63.9%、2学年合計 73.7%
- ・ 実施方法：以下の2通りの方法で行った
留置調査：授業の後に質問紙を配布し、持ち帰ってもらい、後日、短期大学内に設置したポストに投函してもらった。
集合調査：授業中に実施し、その場で回収した。
- ・ 実施時間：約20分
- ・ 質問内容：動物看護職のイメージに関する36項目(外見2項目、性格5項目、仕事11項目、環境10項目、将来性6項目、社会的見地2項目)、将来の職業希望に関する3項目と動物病院研修に関する1項目の合計40項目と属性(性別、学年)
- ・ 回答方法：4段階評定法(そう思う～そう思わない)、2件法(はい、いいえ)、複数回答法、自由記述法

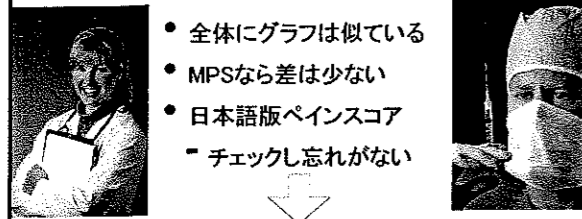
分析方法

動物看護学生がイメージする動物看護職の現状、理想について検討した。さらに、動物看護師のイメージに関する各項目について、4段階試行後、得点化し、t検定にて、1年生と3年生の平均値の差の検定(SPSS13.0統計パッケージ)を行った。

<結果>

動物看護職に対するイメージの学年別平均について、動物看護職のイメージ21項目の中で学年差の見られたものは、「1. 清潔な格好」「2. 感受性が豊か」「4. 雑務は嫌である」「5. 一般に浸透している」「6. 生涯続けられる」「10. 無資格でよい」「17. 理想の仕事」「18. 否理想の仕事」「20. 経営希望」の項目であった。その中で、「1. 清潔な格好」「2. 感受性が豊か」「4. 雑務は嫌である」「5. 一般に浸透している」「6. 生涯続けられる」「17. 理想の仕事」

考察2:VTとDVMの差



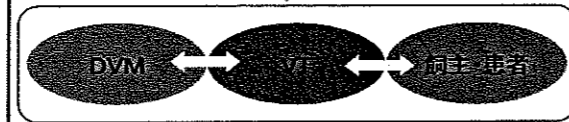
- ・ 全体にグラフは似ている
- ・ MPSなら差は少ない
- ・ 日本語版ペインスコア
- チェックし忘れがない

日本語版ペインスコア+MPSなら
両者のペインスコアの差をさらに縮小できる可能性

今後も両者の討論や検討を続けていく必要がある

今後の課題

院内での痛みの共通認識の共有



ペインスコアだけが
疼痛管理ではない

★非生理学的アプローチ
動物を清潔な状態に保つ
空気の湿度を適正に保つ
静かに心もよい環境
に保つ

これも疼痛管理の一部!

「20. 経営希望」の7項目で1年生のほうが、3年生より平均値が有意に高かった。また、「10. 無資格でよい」「18. 否理想の仕事」の2項目が3年生のほうが、1年生より平均値が有意に高かった(表1)。

動物看護に対する自分の考えを「はい」「いいえ」で回答してもらった質問について χ^2 検定を行った結果、「獣医師の指示のもと採血を行ってもよい」 $\chi^2(1) = 13.6$ 「動物看護師には若い人が多いと思う」 $\chi^2(1) = 6.5$ 「動物看護師は、働いている動物病院以外の動物病院と交流がない」 $\chi^2(1) = 6.9$ の3項目で有意な結果が得られた。その中で、「獣医師の指示のもと採血を行ってもよい」「動物看護師には若い人が多いと思う」の2項目が、1年生のほうが「はい」と答える割合が高かった。また、「動物看護師は、働いている動物病院以外の動物病院と交流がない」では、3年生のほうが「はい」と答える割合が高い結果が得られた。

動物看護師に求められる能力について、17項目の中から必要と思う3項目を選択してもらった結果、1年生は「技術」「知識」「体力」に、3年生は「洞察力」「コミュニケーション能力」「体力」に多く意見が集中した(表2)。

獣医師のイメージ13項目の中から自分のイメージと合致した3項目を選択してもらった結果、1年、3年ともに「指導者」「信頼」「男性が多い」「尊敬」の4項目が多く、学年による違いはあまり見られなかった(表3)。

労働条件10項目について、条件が悪いと思う3項目を選択してもらった。1年生、3年生ともに、「給料」「休暇」「労働時間」が多い一方で、「保険」については、1年生で6位だったのに対し、3年生では4位となった(表4)。

<考察>

両学年において、動物看護師に対して、優しそう、いい人そうなど肯定的なイメージを持っている。3年生のほうが、1年生よりも外見の項目である「1. 清潔な格好」の平均値が低かったのは、3年生は動物病院研修を通して実際に働いている動物看護師と接し、漠然と抱いていた動物看護師のイメージが現実化・具体化されたためと考えられる。同様に、「6. 生涯続けられる」「17. 理想的な仕事」の項目で有意に3年生のほうが平均値が低かったのは、動物看護職に憧れを抱いている1年生と、研修を経験し、就職を控え、自分の生活面など現実問題として意識している3年生の差がでたものと考えられる。また、「動物看護師には若い人が多いと思う」の項目の自由記述において、1年生は『動物看護師という職業が最近出来たから』と記述した人が多いのに対し、3年生は『結婚、育児、安価な給与により若い時期に退職、転職をするから』と記述した人が多い。これにより、3年生は動物看護職が社会的に確立されていないことによる不安定な労働条件や、将来に不安を感じていると考えられ、今後、動物看護職が国家資格になれば、社会的に確立された職業となり、続けられると考える人が増えるかもしれないことが示唆された。

「獣医師の指示のもと採血を行ってもよい」という項目は両学年とも行ってもよいと考える人の割合が多かった。しかし、1年生は「4. 雑務は嫌である」「20. 経営希望」の項目で3年生よりも平均値が高く、「動物看護師に必要な能力」で、「技術」「知識」を上位に挙げていることから、動物看護の職域の可能性を考えているため、3年生よりも「はい」と答えた割合が高いと考えられた。また、「動物看護師にとって一番重要な仕事は」の項目の自由記述で、1年生は『獣医のサポート、保定』の記述が多かったが、3年生は『掃除、院内の衛生管理』を記述する人が多かった。さらに、「動物看護師に必要な能力」で、3年生は「洞察力」「コミュニケーション能力」「体力」など実際に働く上で基礎となる能力を挙げている。これらのことは、研修を経験することで技術以外にも動物看護には重要なことがあると認識するようになったと考えられる。

「獣医師のイメージについて」の項目であまり学年の違いが見られなかったのは、研修先、教授、飼い主としてなど、自分がどのような立場で、どのような獣医師と関わったのかによって、人それぞれ獣医師のイメージが異なってくるからと考えられる。また、獣医師に対して否定的なイメージを持つ人は、3つとも否定的な項目を選び、逆に肯定的なイメージを持つ人は3つとも肯定的な項目を選択した人が多いと考えられた。

以上から、動物看護職に憧れを抱いている1年生と、就職を控え、将来の自分の生活などを現実問題としている3年生とでは職業に対する認識が異なると考えられ、3年生は動物病院研修を通して、漠然と抱いていた動物看護師のイメージが現実化・具体化されていることが示唆された。つまり、動物看護学生は学校生活3年間の中で、授業や研修を通して動物看護職に対するイメージが現実化してきたと考えられる。

<おわりに>

動物看護学生の動物看護職への意識を向上させるために本調査を役立てたい。また、今回の結果を、動物看護学生を指導する方々の役に立ててもらいたいと考える。

引用文献

石田範子ら(1994). 看護学生の看護に対するイメージの変容について—基礎看護学見学実習前・後の比較—, 秋田大学医短紀要, 2, 91-97.
 石田範子ら(1997). 看護学生の看護に対するイメージの変容について(2)—縦断的方法による検討—, 秋田大学医短紀要, 5, 5-56.
 白井雅美ら(1995). 看護学生の看護に関するイメージの学年別による検討, Quality Nursing, 1(11), p65-70.

表1 動物看護職のイメージの各項目の学年別平均値・M(標準偏差:SD, t値, 有意確立)

質問項目	1,3年 N	M	SD	1年 N	M	SD	3年 N	M	SD	t値	有意確率
1.動物看護師は清潔な格好をしている	185	3.52	0.58	109	3.62	0.52	76	3.38	0.63	2.75	1>3(p<0.01)
2.動物看護師は感受性に富んだ人が向いている	186	2.83	0.79	110	2.96	0.77	76	2.63	0.78	2.86	1>3(p<0.01)
3.動物看護師は動物が過ごしやすい環境を自発的に提供するべきだ	186	3.56	0.61	110	3.55	0.57	76	3.6	0.68		
4.将来、動物看護師になったとき、掃除・洗濯などの雑務を行うのは嫌だ	186	1.55	0.83	110	1.67	0.9	76	1.37	0.67	2.64	1>3(p<0.01)
5.動物看護師という職業は一般の人に浸透していると思う	185	1.83	0.77	109	1.95	0.85	76	1.64	0.6	2.72	1>3(p<0.01)
6.動物看護師は生涯続けられると思う	186	2.41	1	110	2.55	1	76	2.21	0.97	2.27	1>3(p<0.05)
7.動物看護師の仕事内容は統一されるべきである	186	2.77	0.96	110	2.84	0.95	76	2.67	0.96		
8.動物看護師の仕事内容は多種多様である	186	3.69	0.52	110	3.69	0.5	76	3.7	0.54		
9.動物看護師は獣医師の指示がなければ何も出来ない	186	2.28	0.95	110	2.27	0.99	76	2.3	0.89		
10.動物看護師は動物看護師の認定資格がなくても務まる	185	2.52	0.98	109	2.26	0.96	76	2.9	0.89	-4.6	1>3(p<0.01)
11.今後、動物看護職の国家資格が定められるべきだ	185	3.52	0.79	109	3.57	0.77	76	3.44	0.81		
12.獣医師は動物看護職について理解していないと思う	183	2.25	0.76	110	2.29	0.77	73	2.19	0.76		
13.動物看護師の価値観により提供する動物看護は変わると思う	186	3.23	0.7	110	3.24	0.73	76	3.22	0.64		
14.動物看護師の生命観により提供する動物看護は変わると思う	186	3.3	0.72	110	3.33	0.68	76	3.26	0.77		
15.動物看護師の性格により提供する動物看護は変わると思う	185	3.11	0.78	109	3.06	0.76	76	3.18	0.81		
16.動物看護師の多くは現状満足していると思う	182	1.67	0.73	108	1.8	0.75	74	1.97	0.7		
17.動物看護師は理想の仕事である	185	2.58	0.82	110	2.7	0.81	75	2.42	0.81	2.18	1>3(p<0.05)
18.動物看護を学ぶことで、動物看護師は理想の仕事ではないと分かった	185	2.18	0.95	110	2.01	0.85	75	2.44	1.03	-3	1>3(p<0.01)
19.卒業後も動物看護の勉強がしたい	186	2.93	0.93	110	2.3	1	76	2.9	0.83		
20.動物病院の経営者になりたい	186	1.8	0.95	110	2	1.03	76	1.51	0.76	3.46	1>3(p<0.01)
21.動物看護師になるのに不安がある	186	3.15	0.94	110	3.08	0.94	76	3.23	0.95		

表2 動物看護師に求められる能力(1,3年生)

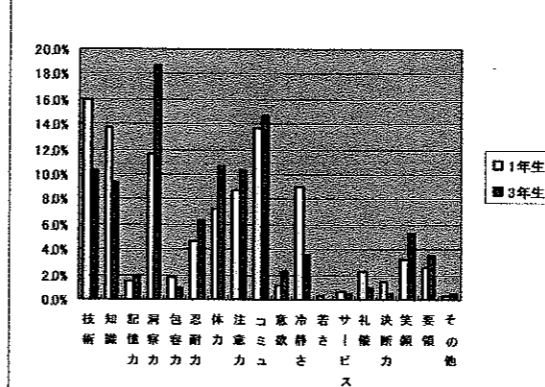


表4 悪いと思う労働条件(1,3年生)

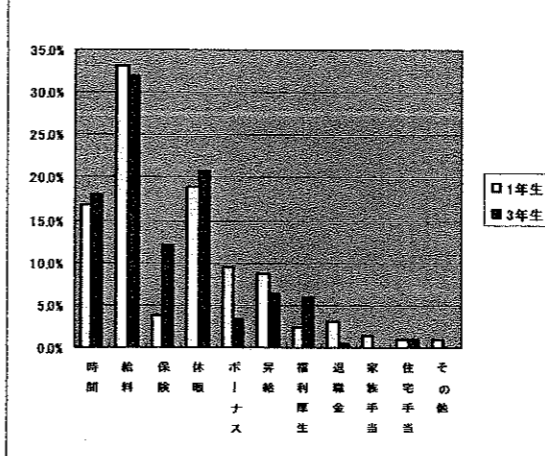
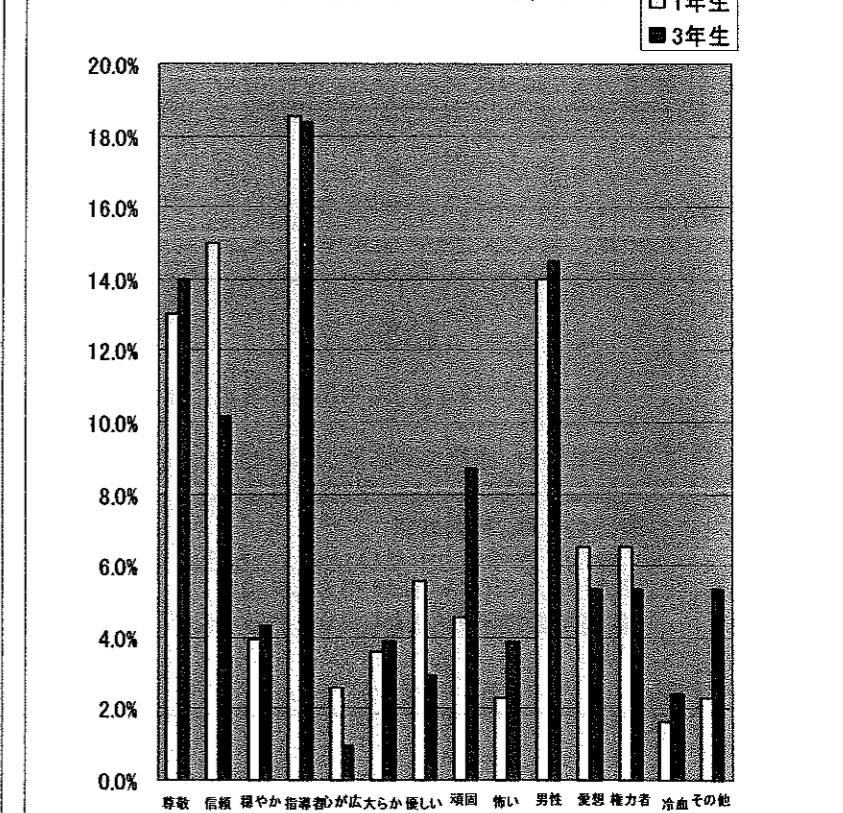


表3 獣医師のイメージ(1,3年生)



動物看護学生がイメージする 動物看護職の現状と理想 ～学年差についての検討～

小嶋未来 太田千絵 北嶋愛夢 佐藤雅俊 藤田朋美 渡部美樹 濱野佐代子
ヤマザキ動物看護短期大学



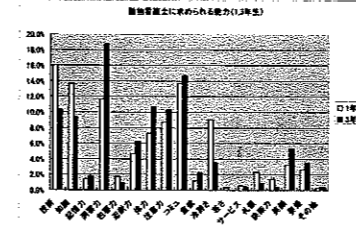
はじめに

- 動物看護学生の動物看護職への意識は動物病院研修を行うことにより大きく変容すると考えられる。
- 動物看護職に対して抱くイメージが、職業選択に大きく影響すると考えられる。



動物看護師に求められる能力について (3つ選択)

- 1年生 技術、知識、体力
- 3年生 洞察力、コミュニケーション能力、体力



- 動物看護師にとって一番重要な仕事
- 1年生
 - 獣医師のサポート
 - 保定
 - 動物の看護
- 3年生
 - 掃除、院内の衛生管理
 - 動物の観察
 - 飼い主の対応

目的

- 動物看護学生のイメージする動物看護職の現状と理想を知る。
- 動物看護学の学習や実習、動物病院研修を経験して動物看護職のイメージが変化したか、1年生と3年生の比較をし、検討する。



研究方法

- 本調査
- 実施日時: 2006年6月上旬
 - 方法: 質問紙調査法
 - 調査協力者: A短期大学の1年生109名、3年生76名、2学年合計185名
 - 回答方法: 4段階評定法、2件法、複数回答法、自由記述



全体の考察

- 動物看護職に憧れを抱いている1年生と、就職を控え、将来の自分の生活などを現実問題としている3年生とでは職業に対する認識が異なる。
- 3年生は動物病院研修を通して、漠然と抱いていた動物看護師のイメージが現実化・具体化されている。

おわりに

- 動物看護学生は学校生活3年間の中で、授業や研修を通して動物看護職に対するイメージが現実化してきたと考えられる。
- アンケートをきっかけに動物看護職への意識を向上させ、今後活躍していきたい。
- 今回の結果を、動物看護学生を指導する方々の役に立ててもらいたい。

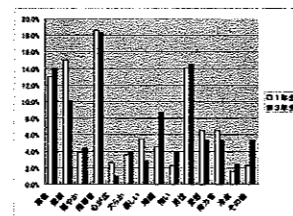


結果

- 1年生のほうが3年生より平均値が有意に高かったもの
清潔な格好、感受性が必要、雑務は嫌である、一般に浸透していない、生涯続けられる、理想の仕事、経営希望
- 1年のほうが3年より「はい」と答えた割合が多かったもの ($\chi^2(1) = 13.6, p < .01$)
「獣医師の指示のもとなら採血を行ってもよい」

動物看護学生が考える獣医師の イメージについて (3つ選択)

- 1年生 指導者、信頼、男性が多い
- 3年生 指導者、男性が多い、尊敬



体温・心拍数・呼吸数 (TPR) 測定の有用性について

○田嶋理沙¹⁾、小林哲也²⁾、佐藤聡美¹⁾、谷田行平¹⁾、松下容子¹⁾、小島亜子¹⁾、川上美幸¹⁾、小林園仁¹⁾
 1) 小林犬猫病院 (埼玉県)、2) 日本小動物医科学研究所附属 日本小動物がんセンター (埼玉県)

はじめに

体温、脈拍数、呼吸数 (以下 TPR) の測定は、動物の一般状態を知るための基本的で重要な指標である。当院では、腫瘍患者の健康管理のために、自宅でも飼い主に TPR 測定を実施するよう指導している。これにより、飼い主自身が TPR 測定を通して自宅で動物の状態を把握することが可能となり、更に測定データを持参してもらうことにより、治療を推進する際の指標として活用することもできる。今回、集積したデータを解析した結果、自宅で測定した TPR 値と院内で測定した値に明らかな相違が生じていることに気が付いた。そこで、①院内および自宅における TPR 値の比較、②自宅における TPR 測定の有用性を多角的に検討し考察した。

材料と方法

家庭での TPR 測定は、朝晩2回、安静時における動物の体温、脈拍数、呼吸数の測定法を飼い主に指導した。検温時における興奮により数値が変動する現象を避けるため、呼吸数、心拍数、体温の順で測定した。院内では来院後15分以内に測定し、検温時における興奮を避けるため、呼吸数、心拍数、体温の順で測定した。

症例1: 9歳齢、雌、ゴールデン・レトリバー、多中心型リンパ腫 (ステージIIIa)。ウィスコンシン大学ショートプロトコール (UW25)¹⁾にて加療中の約8ヶ月間、自宅での TPR 測定を指導した。

症例2: 12歳齢、去勢雄、雑種犬、甲状腺癌および甲状腺癌の肺転移。緩和治療としてサリドマイドおよびピロキシカムによって加療された18ヶ月間、自宅での TPR 測定を指導した。

結果

院内および自宅における TPR 値の比較について

- 症例1: 体温および心拍数は敗血症で来院した時を除き、全て院内で測定した値の方が高かった。また、院内ではパンティング状態であることが多く、呼吸数の正確な比較は困難であった。
- 症例2: 体温及び心拍数は、全て院内で測定した値の方が高かった。また、院内ではパンティング状態であることが多く、呼吸数を正確に比較することは困難であった。

自宅における TPR 測定の有用性について

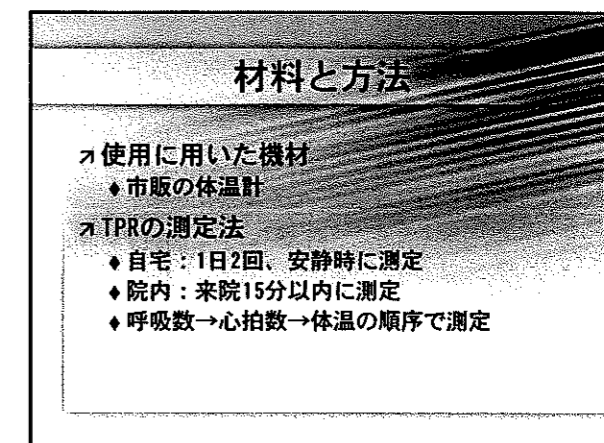
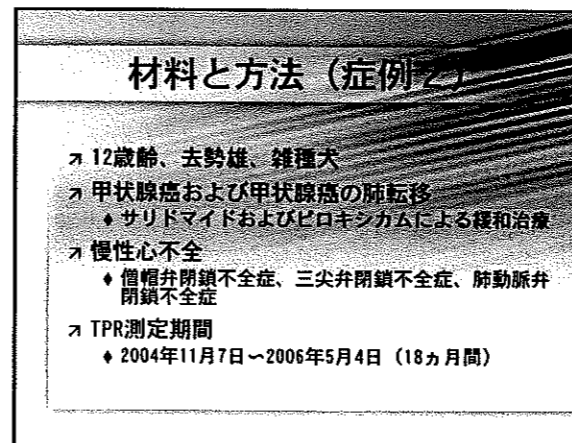
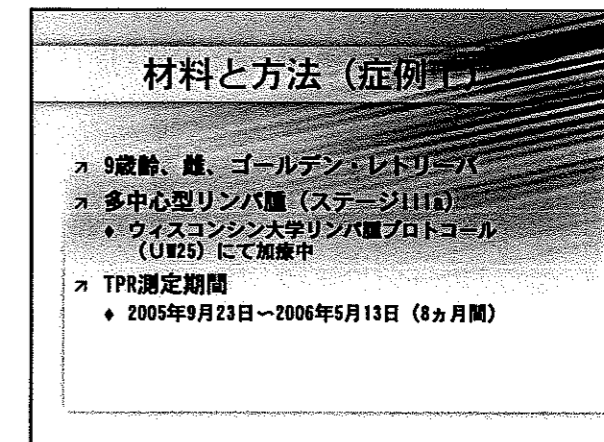
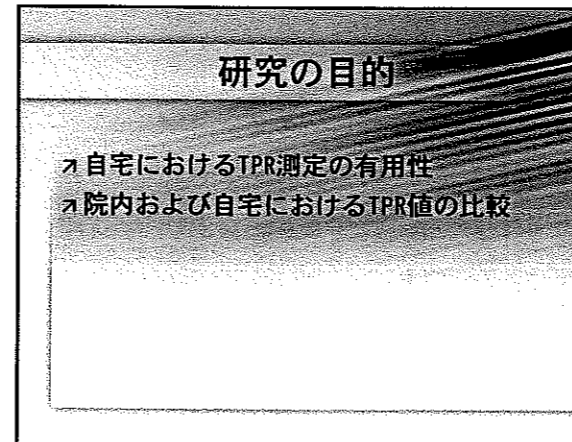
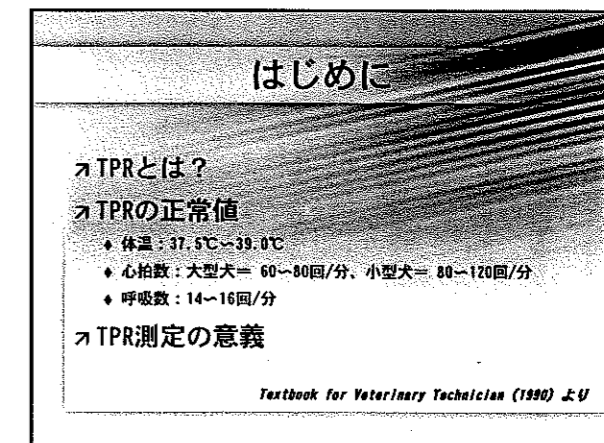
- 症例1: 化学療法中に自宅で TPR を測定することで、犬の一般状態をより注意深く観察することを促すことができた。今回の観察期間中、化学療法に起因する敗血症は2回引き起こされ、いずれの日に測定された TPR 値も、個体の正常値から大きく逸脱していた。また、当日実施された血液検査でも白血球減少症は顕著 ($1,000/\mu\text{l}$ 以下) で、敗血症の定義²⁾を十分に満たしていたが、犬の一般状態が極端に落ち込むまでには至らなかった。今回の症例では、敗血症の初期に積極的な治療が開始された結果、いずれの入院期間も48時間程度と短期間で退院することが可能であった。
- 症例2: 自宅で TPR を測定することで、犬の一般状態をより注意深く観察する機会が与えられている様子であった。その結果、問題が生じたときも一般的な飼い主より来院するタイミングが早く、早期に対症療法を開始することが可能であった。

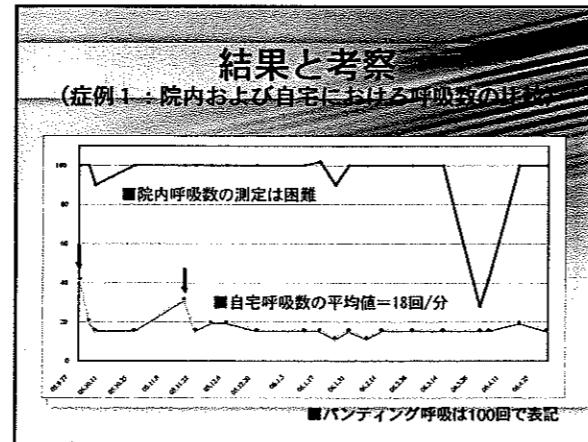
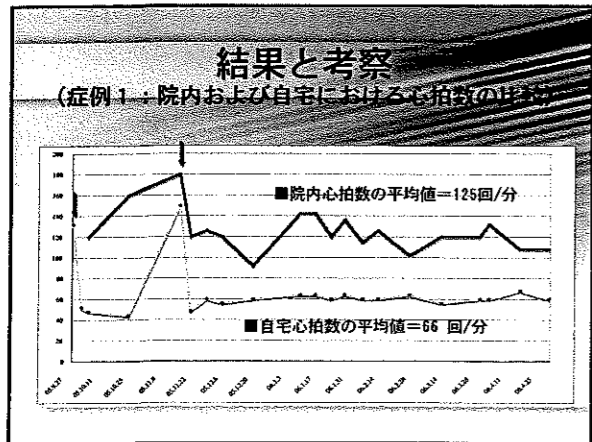
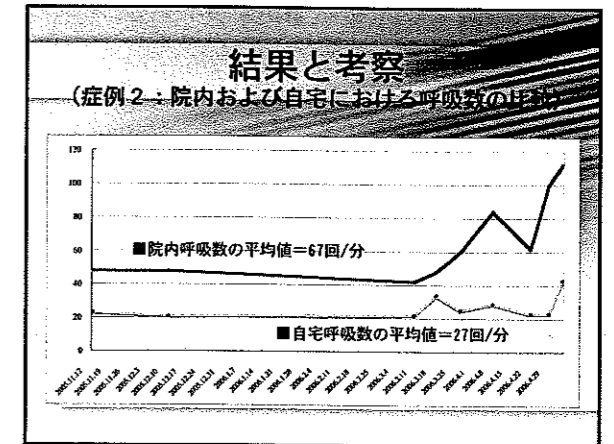
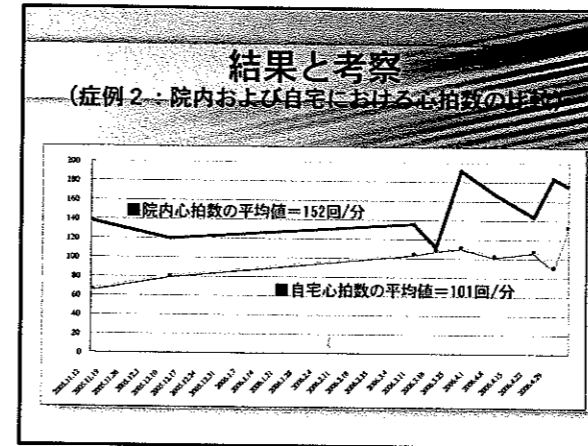
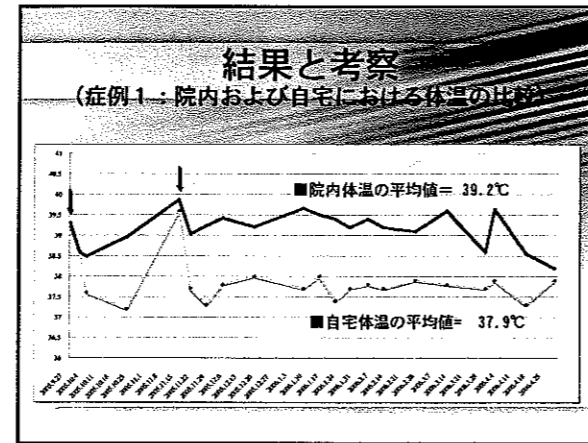
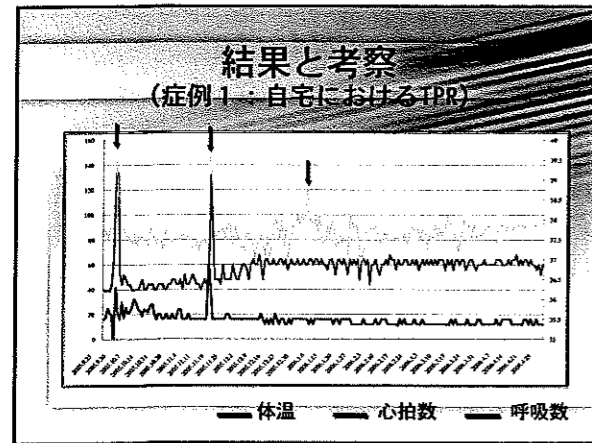
考察

今回の結果は、自宅での安静時と来院直後に測定される TPR 値の相違を明確に示唆している。つまり、興奮と緊張が冷めないまま形通りの TPR を来院直後に測定しても、臨床的な有用性は低いと思われる。特に病気を疑い動物の TPR を院内で測定する際は、興奮や緊張を冷まし、少なくとも院内環境にある程度順応した状態で測定する必要性を強く感じた。また、重篤な疾患を抱え在宅治療を行う上で、家庭での TPR 測定の有用性を痛感した。特に化学療法中など、動物の病態が刻一刻と変化する病態下では、TPR 値の異常が飼い主に早期来院を促し、結果として早期治療に結びつく可能性が示唆された。

¹⁾ Garrett LD, Thamm DH, Chun R. et al. Evaluation of a 6-month chemotherapy protocol with no maintenance therapy for dogs with lymphoma. J Vet Intern Med. 16:704-709, 2002.

²⁾ Mathews KA. Septic Shock. In Veterinary Emergency and Critical Care Manual. Lifelearn Inc., Guelph, Ontario, Canada. 1996, pp26-1.



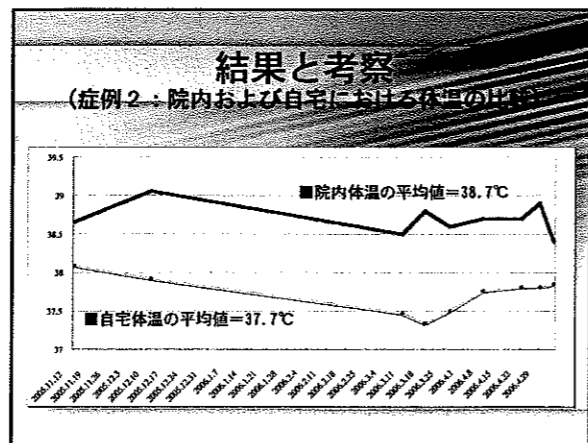
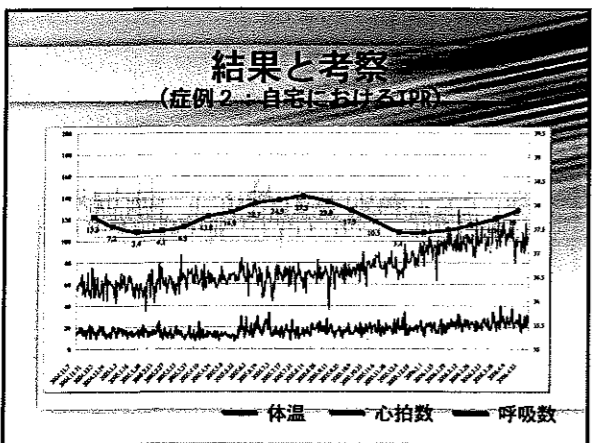


まとめ

- ⌘ 重篤疾患を伴う動物における家庭内TPRの重要性
 - ◆ 自宅TPR測定の直接効果
 - ◆ 自宅TPR測定の間接効果
- ⌘ 院内TPRの問題点を認識
 - ◆ 院内環境へ順応後の測定の必要性

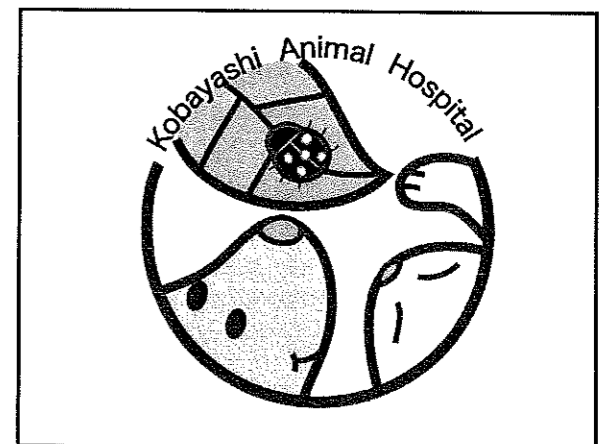
今後の課題

- ⌘ 症例数の蓄積およびデータの統計処理



謝辞

⌘ 今回の研究に快くご協力してくださった飼主様および小林犬猫病院のスタッフ一同に深謝いたします



ドッグラン施設における現状と課題

動物看護師 依田久美 (赤池ペットクリニック)

【研究目的】

ドッグラン施設の利用にあたり、不特定多数の犬や人が集まることから犬同士の咬傷事故など危険な事例も報告されている。そこで、動物看護師として、犬とオーナーがドッグラン施設を楽しむアドバイスをするため、ドッグラン施設の現状と問題点を検討することにした。

【研究方法】

- I ドッグラン施設の利用規約を調査し、管理者がどのような点に注意をはらっているのかを把握する。
- II ドッグラン施設の管理者に聞き取り調査を行い、実際に起きた事例を把握する。
- III ドッグラン施設を実際に利用し、その体験から現状と問題点を把握する。

【研究結果】

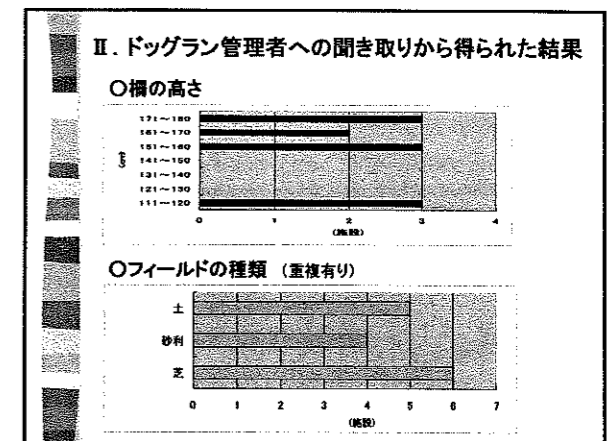
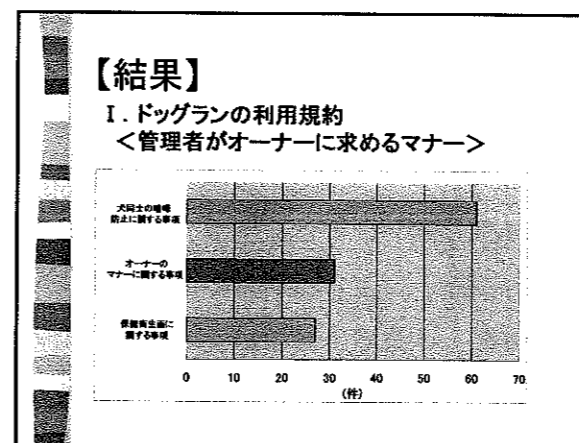
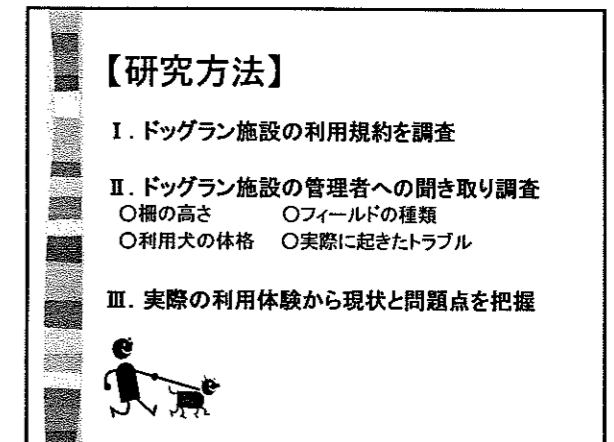
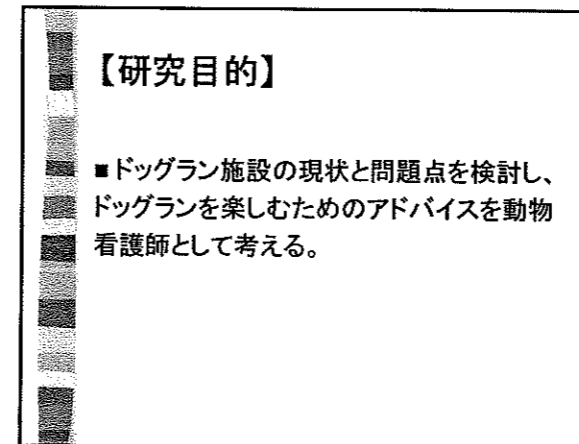
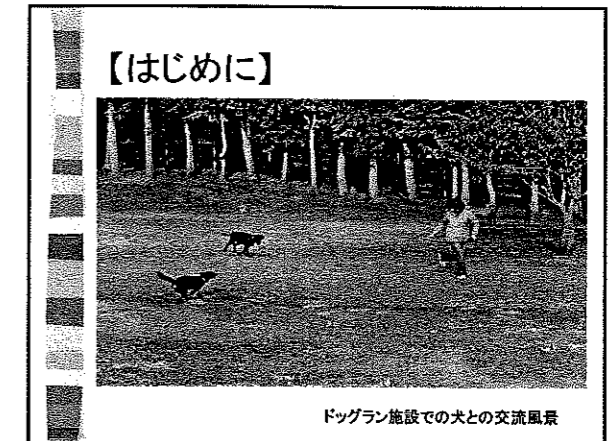
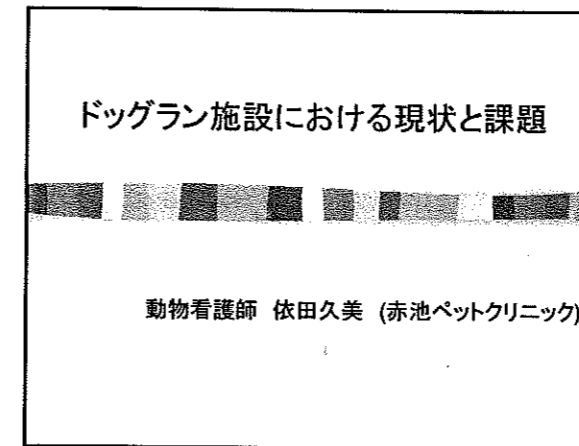
- I 近県 14 施設で 119 項の利用規約があり、その内容は『犬同士の喧嘩防止に関する事項』が最も多く 61 項、次いで『オーナーのマナーに関する事項』の 31 項、『保健衛生面に関する事項』の 27 項に大別された。
- II 近県 14 施設のうち、12 施設(山梨県 5 施設・県外 7 施設)の管理者から聞き取りの協力が得られた。実際に起きたトラブルに関する回答は 22 件得られ、それらは『オーナーのマナー違反から生じたトラブル』13 件、『犬同士の喧嘩から生じたトラブル』7 件、『施設利用に際して生じたトラブル』2 件に大別された。
- III 山梨県 2 施設・県外 4 施設に愛犬(フラット・コーテッド・レトリバー 2 才 雌)を連れて実際に利用した。利用規約の中では、狂犬病ワクチン・混合ワクチンが未接種の場合入場禁止と書かれていたが、証明書を提示することなく利用できる現状にあった。

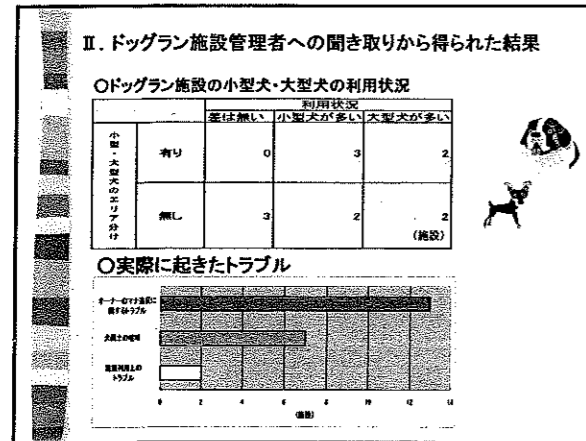
【考察】

オーナーによって施設の利用目的が自分の愛犬とのコミュニケーションの場であったり、犬同士の遊び場であったりと様々である。利用目的の異なるオーナーが同時にドッグラン施設を楽しく利用するためには、オーナー同士互いに配慮することを指導する必要がある。また、予防接種の確認が不十分なため、愛犬を感染症から守り、病気を他の犬に蔓延させないためにも予防接種やノミ・マダニ予防など徹底した上でドッグラン施設を利用するようアドバイスする必要がある。

【参考文献】

- 1)太田潤 (2006) オートキャンプ 犬と一緒に楽しもう, 日本経済新聞, 13
- 2)太田光明 (2003) 「人と動物の関係」の学び方, 42, 株式会社メディカルサイエンス社
- 3)赤池久恵 (2000) 動物看護を考える(I) 看護事例に沿って動物看護を再確認
アニマル・ナーシング, 13:5-6
- 4)高山直秀 (2000) 人の狂犬病 忘れられた死の病, 15-19, 116-117 時空出版





III. 実際の利用体験から得られた結果

- ①土のフィールドは、雨が降った後に利用すると汚れやすい。
- ②大型犬が利用の場合、111~120cmの柵では犬が飛び越えてしまいそうで不安に感じる。
- ③小型犬のオーナーは、大型犬が近づくと自分の犬が怪我をしないかと不安な表情を見せる。
- ④ドッグラン利用前に狂犬病ワクチン・混合ワクチンの証明書の提示は求められなかった。

【考察】

動物看護師として、ドッグランを利用するオーナーへのアドバイス

- i) フィールドが芝の施設を利用しましょう!!
- ii) ドッグラン施設の利用目的がオーナーによって異なるので、互いに配慮して利用しましょう!!
- iii) 愛犬の健康はオーナー自身責任もって守りましょう!!

【参考文献】

- 1) 太田潤(2006) オートキャンプ 犬と一緒に楽しもう, 日本経済新聞, 13
- 2) 太田光明(2003) 「人と動物の関係」の学び方, 42, 株式会社メディカルサイエンス社
- 3) 赤池久恵(2000) 動物看護を考える(1) 看護事例に沿って動物看護を再確認, アニマル・ナーシング, 13:5-6
- 4) 高山直秀(2000) 人の狂犬病 忘れられた死の病, 15-19, 116-117 時空出版

【謝辞】

取材に応じてくださったドッグラン

・いぬたまドッグパーク	・富士スバルランド Doggy Park
・清里わんわんパーク	・Private House Byron
・国営昭和記念公園	・国営昭和記念公園
・SUN-LAKE	・PLAYFULL DOG
・Dog Field ゆう	・ラムール ノア
・ひなたドッグラン	・Lake Wood Resort

ご清聴ありがとうございました。

【ガイダンス】

動物看護過程(アセスメント・診断・実施・評価)とは何か
および 発表と投稿の方法

西谷孝子

(広島県・西谷獣医科病院 動物看護師)

今、動物看護師は、「過渡期である」と考えています。過渡期とは、古いものから新しいものへと移っていく途中の時代です。今、獣医療の発展と共に、動物看護師という存在が、社会に認知されつつあります。現在のところ、国家資格のような法律で定められた資格ではありませんが、昨年7月に農林水産省が発表した「小動物獣医療に関する検討会」の報告書では、「獣医療補助者について」という項目で、獣医療において動物看護師が大きな役割を果たしている現状が盛り込まれていました。それを受けると、今年3月、日本獣医師会と日本獣医師学会との連携大会で、動物看護師の資格認定主要5団体による、シンポジウムも行われました。各団体の意見交換が行われました。

そして、基礎教育においては、多くの動物看護系の専門学校があり、短大や大学における教育も始まりました。しかしながら、基礎教育においては統一されたカリキュラムがなく、卒業時の到達目標も各校で異なるのが現状のように感じます。

さて、このような時代にこそ、私たちは何をすべきなのでしょう？ 私自身臨床の現場で働いている動物看護師です。過渡期の今こそ、現場で働いている動物看護師の存在が重要であると考えています。

なぜ、動物看護学が獣医学と比べて遅れをとったのでしょうか？ その理由のひとつには、「自分の看護を言葉にする」ことをしなかったためであるのではと思います。

お互いの経験を共有するためにも、自分の看護をプロセスとして表現し、言葉の意味を共通認識することが必要です。そのために、言葉についての定義付けも必要となります。

飼い主と話をしながら、動物を観察しながら、動物がどんな健康問題を持ち、飼い主がどのように対応しているのかを判断し、看護が介入することで解決できる問題はないか、必要な情報を収集し、分析・判断し、問題を解決する方向性を示し、計画・実践し、その結果を評価する。この一連の過程を看護過程といいます。つまり、動物看護師の思考の過程であり、実践そのものなのです。



「動物看護過程(アセスメント・診断・実施・評価)とは何か
および 発表と投稿の方法」

今なぜ必要なのか？

西谷獣医科病院

動物看護師 西谷孝子



過渡期である

- ◆ 2005、7月 農林水産省
「小動物獣医療に関する検討会」
「獣医療補助者について」
- ◆ 2006、3月、日本獣医師会と日本獣医師学会との連携大会で、動物看護師の資格認定主要5団体による、シンポジウム
- ◆ 短大や大学における教育



臨床動物看護研究会

- ◆ 臨床動物看護の定義
- ◆ 「来院されるあらゆる動物とその飼い主を対象に、すべての動物の健康レベルに対しての看護である。健康レベルとは、健康なとき～保持増進、疾病の予防・発見。病気のとき～治療及び看護、回復のとき～生活活動のための援助。終末期～平和な死への援助。」



動物看護師の専門性とは

- ◆ 看護師は、飼い主と話をしながら、動物を観察しながら、動物がどんな健康問題を持ち、飼い主がどのように対応しているのかを判断し、看護が介入することで解決できる問題はないか、必要な情報を収集し、分析・判断し、問題を解決する方向性を示し、計画・実践し、その結果を評価する。この一連の過程を看護過程といいます。つまり、動物看護師の思考の過程であり、実践そのものなのです。



自分の看護を言葉にする

- ◆ 経験を技術にする



看護実践

- ◆ 川島は「看護実践とは、看護婦が能動的に看護婦自身の身体的諸器官ならびにその延長としての道具や器械等を用いて、対象のより良い変化を目指して働きかける過程をいう」



動物看護師の発展

- ◆ 病院という組織の一員としての役割・職域のあり方
- ◆ 病院における動物看護師として動物看護を探究する姿勢



動物臨床看護研究会

- ◆ 動物看護師の倫理規定として
- ◆ 「動物看護師は常に質の高い看護が提供できるように個人の責任において継続的学習に努める」
- ◆ 「動物看護師は、看護実践の水準を高め、よりよい看護ケアのために動物看護研究に努める」



技術と技能

- ◆ その結果目指していた変化が獲得できたとき、その変化(目標)と方法との間の因果関係における客観的法則性を抽出でき意識的に適用することができれば、これを技術という
- ◆ これに対して身体感覚で把握している法則性すなわち、主観的な法則性に基づく技の側面を技能と呼ぶ



- ◆ 実践には技術的実践と技能的な実践がある。技術は客観的であり知識の形で伝えることができ、教育可能で社会的なものといえる。これに対して技能は、個人的主観的な技であるため、熟練で獲得できるが、他人にこれを言葉で伝えることは出来ない」と述べている。



専門職業人

- ◆ 「生涯」にわたり、「主体的」に「自己学習」を「継続」すること
- ◆ 「自己学習」とは、自らの能力の開発は自らの責任であるという自覚をもつこと
- ◆ 「主体的」とは、他のものによって導かれるのではなく、自己の純粋な立場においておこなうさま



必要なこと

- ◆ 今している動物看護をお互いが共有する
- ◆ 研究ができるような環境づくり
- ◆ 獣医学の視点と動物看護の視点の違いを知る



◆今回初めての学会、初めての発表を無事終えることができました。今回の発表で、多くの人の前で発表するという経験だけでなく、一度行った看護をもう一度振り返るという経験をしました。普段一度行った看護を振り返ることはあまりないのでとても不思議な感じがしました。



◆同じ病気でも患畜によって看護は変わってくるのです。そして看護は知識と経験とが必要だと感じました。そしてそれだけではなく思いやりの気持ちが大切だと思いました。知識も経験もまだまだ不十分な私ですが、動物の気持ちを考えることはできます。どうすれば苦痛が和らぐか、どうすれば安楽か、こう考えることが最も大切なことではないかと感じました。



◆記録はただ情報を交換するだけでなく、残すことによって次につなげることができます。病院に来院された患畜のカルテの中にある私が来る前の入院記録などを読むと、その子の病歴だけでなく性格までも分かってきます。私も次につなげられるような記録を書き、日々よりよい看護を目指して学習していきたいと思います。



看護を語る

◆看護を共有する場を確保する

MEMO

日本動物看護学会
第15回大会 テキスト

2006（平成18）年 7月9日 発行

発行元 日本動物看護学会
〒104-0032 東京都千代田区神田淡路町2丁目23番
アクセス御茶ノ水2F
TEL 03-5298-2850(代) FAX 03-5298-2851
E-mail jsan_info@jsan.org ホームページ <http://www.jsan.org>

無断で複写・複製・転載することを厳禁します。
